

(別紙2-1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 27年 3月 27日

【事業所概要 (事業所記入)】

事業所番号	4271500987		
法人名	有限会社 UTASI		
事業所名	グループホームうたし		
所在地	〒859-6204 長崎県佐世保市鹿町下歌ヶ浦 986-38		
自己評価作成日	平成27年1月10日	評価結果市町受理日	平成27年3月30日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 URL	http://www.kaigokensaku.jp/42/index.php
--------------	---

【評価機関概要 (評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町 3118-1
訪問調査日	平成27年3月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点 (事業所記入)】

地域の地区会、老人会に加入しており、新年会や総会地区の行事に入所者の方々が参加している。ホームの敬老会、クリスマス会は地域の皆様に参加いただき、大変喜ばれている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点 (評価機関記入)】

外部評価に当たり、職員全員で入居者の支援の振り返りで自己評価をされた。リビングの大きな掃き出し窓から海に浮かぶ島々の景色が眺望出来るため、入居者からの要望でゴーヤの緑のカーテンは不要である事を気づかれた。訪問時、昼食の支度を利用者と職員の共同作業で行われており、会話の中から普段の生活の様子が窺え、昼食後はお彼岸の「おはぎ」調理に取り掛かり我が家にいる楽しい雰囲気であった。理念「自分らしく、あるがままに」を自然に共有し代表者や管理者、職員は実践に活かされている。管理者は、「開設時の理念は抽象的であるので、誰が聞いてもわかりやすい言葉」と思われている。代表者は職員の人望も厚く、更に期待できる事業所である。

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者の方々が笑顔で生活できるような理念を作り、又、職員全員で共有している	開設時からの「自分らしく、あるがままに」を主眼とした理念を事業所内に掲示している。毎月1回の職員会議でケアカンファレンスを含め実践しているかを、細かく理念の振り返りを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区会、地区老人会に入会し、行事への参加を通し、交流を図っている。又、行事の際には地域の方々に参加を頂いている。	事業所は地区の新年会や老人会に参加されている。学生の体験学習も受け入れられ外部との交流を深めている。行政からの要請で、地域住民も参加し口腔ケア・認知症の種類についてテーマを決め地区の公民館で介護教室を開催し、地域貢献にも努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方へ向け、毎年介護教室を開催し参加を呼び掛け参加を頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、活動報告、職員手作りの新聞を発行しながら入居者の動向を報告している。又、地域の情報なども交換し合い、サービスの向上へ反映している。	運営推進会議に知見者・民生委員・地域包括支援センター・管理者・職員が参加し、事業所の活動報告や意見・情報交換を行い、事業所理解の促進及びサービスの質の向上に繋げている。又、会議でキャラバンメイトの研修を開催したい考えを持たれている。	家族への会議の内容は年1回の家族会の時に口頭で伝えているが、案内を出されていない。運営推進会議に入居者家族への参加を働きかけ、参加できない家族には会議録の内容を報告することを期待したい。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターとは連絡を密に取り合い、情報や実情を伝えている。又、運営会議にも参加いただいている。	運営推進会議での地域包括支援センターより意見・情報提供を通じて、連携を図っている。包括支援会議にも施設は参加され入所登録等の要請があり協力関係が築かれている。	

6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が身体拘束について正しく理解し、日々のケアの中でも職員同士が注意をしながら取り組む努力をしている。	年2回市開催の研修に全職員が参加し、県主催の身体拘束・虐待シンポジウムにも参加する事で職員に意識してもらいケアに取り組んでいる。管理者・職員は利用者の気持ちに寄り添い、見守りや気配りを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が、所内研修・外部研修へ参加し、学びを深める機会を持ち虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会への参加者が学んできたことを、他の職員に報告する機会を必ず設け、必要時には活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者・家族への説明時は、理解しやすいような言葉を選び十分に理解してもらえよう努め、理解を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者へは日々生活の中で十分な観察と、さりげなく声をかけ思いを引き出している。家族へは面会の際に時間を頂き、意見や要望を尋ねるようにしている。又、カンファレンスに参加して頂き、意見・要望を聞く機会を設けている。	昨年家族会を立ち上げ意見を聞く機会作りをされている。毎月料金持参時に、入居者と共に昼食が取れる支援もされている。家族からの要望でコーラス慰問があり地区公民館を借りてクリスマス会を開き入居者の喜びに繋がった。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の職員会議の際、意見を求め協議し、日々の業務の中でも意見を出し合い、運営に反映させている。	管理者が気軽に言える雰囲気作りをされ、職員の意見交換が活発で勤務時間の変更、外部研修へ参加した際は、報告もなされ適切な人材育成に向けた取り組みがなされている。	

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	勤務時間等負担にならないように、有給を取りやすい環境を作っている。給与においても、資格手当等を設け、やりがいが出るよう努力している。		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	スタッフ個々が意識を持てるよう、年間の研修計画を作成し、所内研修、外部研修に参加している。又、幹部研修等も行い、人の育て方の研修も行っている。		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	市のグループホーム連絡協議会に加入し、交流会や研修会に参加しスタッフ間のネットワーク作りをしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	可能な場合、入居者ご本人にホームへ来初して頂き実際に見学して頂く。できない場合は面会に出向き、話しやすい雰囲気を作り、信頼関係を築く努力をしている。		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	入所までに担当者で話し合いの場を持ち、具体的な困りごとや要望を話し合い、又、家族からの話を聞く機会を持っている。		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	相談を受けた時の内容により、状態に応じた他のサービス利用の説明も行い選択肢を提供している。		

18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者が出来ることを探し出すよう心がけ、又、実践している。(食事、清掃など)		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に本人の情報を共有し、本人・家族間の絆を大切にしながら、共に本人を支援していく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの友人の来所や、外出支援・帰宅支援に努めている。又、地区の会合の出席時は同級生等との話を楽しまれている。	従来あった商店が無くなり、現在は近隣スーパーの新たな関係が出来ている。入居者知人の来訪や従来の仕事場、お墓詣りなど管理者自ら馴染みの場所へ同行されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション・学習には入居者全員に声掛けを行い、参加を促している。又、家事手伝いの際にはそれぞれ分担して協力し合っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者、家族の状況に応じて支援している。要望がある時は、入院中の支援を行っている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者の方々(本人、家族)への希望・意向を聞き、ほぼ実現している。	職員は毎日午後から入居者と話を聴く機会を作り、会話や行動を観察しながら意向の把握に努めている。昼食後のモップ拭きや利用者が役割を担って過ごせるよう支援している。	

24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの情報収集を行い、これまでの生活歴などを把握し、知りえた情報を参考にし現在の生活に反映できるように努力している。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれ日々の中で心身状態にあった環境で有する能力を發揮できる場を提供して、本人の状況を把握できるようにしている。		
26	10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者それぞれに担当者を設け、今後の課題、ケアの在り方について事前の話し合いを行っている。又、その後、家族・職員全員でケアカンファレンスを開いている。	担当制を取られ、月1回の評価に伴い支援経過記録にて見直しや更新を行い、一人ひとりのニーズに沿って身体・機能の低下を抑制し、穏やかな生活が送れるように介護計画を作成している。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全職員、利用者各々の介護日誌へ記録を残し、特変が見られた際には付箋を用いて介護計画の見直しに生かしている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本者や家族の現状の変化やニーズに対応できるようスタッフ間で意見を出し合い、又、本人家族の意見を取り入れ、その現状に合った柔軟な支援ができるよう取り組んでいる。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を發揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	老人会や、地域行事にできるだけ参加し地域の交流を図りながら、気軽に声掛けし合える関係作りをしており、安全で楽しく生活できるよう支援している。		

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を尊重し、在宅時からのかかりつけ医を定期的に受診し、通院困難な方には月に1～2回往診をお願いしている。受診時は、現況報告、医師との話し合い、適切な医療を受けられるよう努めている。	かかりつけ医と協力医は連携が取られ安心した医療を受けられ、家族対応の受診では細かい内容を報告する事により共有出来ている。口腔ケアに関して一人ひとりの対応の説明を受け支援されている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中で、日頃の状態を把握し、異常を早期発見できるように心がけ、必要な情報を看護師に相談し、連携して適切な対応ができるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はできるだけ病院に出向き、病院関係者との情報の交換や相談を行い、入居者が安心して治療に専念できるよう医療機関とより良い関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	受診の際、利用者の現状を主治医と話し合い、必要に応じて家族へ報告・相談を行っている。ホームとして出来る事を見極め医療機関や他事業所と共同して支援に取り組んでいる。	看取りは現在まで経験がないが、利用者、利用者家族の要望が有れば協力医（心療内科）の連携体制もあり、取り組みたいとの意向である。「グループホームうたし見取りに関する指針」のマニュアルが作成されており職員研修の実施を検討中である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員は研修に参加し、利用者の緊急時に備え、学び深めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年に3回程度消防署の方へ来て頂き火災訓練、点検を行っている。日頃から火災の無いよう防火管理に努めている。地域の方々とSOSネットワークを結んでいる。	年2回夜間想定を含んだ避難訓練を実施し、消防計画の中に防災計画が織り込まれている。近隣住民に協力依頼し緊急時協力同意書を頂いている。備蓄品は玄関に準備されている。訓練に地区消防団の参加をお願いしたい。	

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者各々を尊重し、それぞれの状態に応じてその人に合った声掛けを工夫し対応している。 職員は利用者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。基本名前は苗字に「～さん」で呼んでいる。個人情報に関する書類は、事務室に保管されている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴やレクリエーションへの参加等、その都度声掛けを行っているが、本人の体調や気分に合わせて自己決定できるよう努めている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のその日の体調に合わせて、自分のペースを大切にして頂き、その日を希望に沿って過ごせるよう支援している。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に行きつけの美容院へ通い、本人に合った身だしなみやおしゃれができるように支援している。
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ほとんど食事の準備から、後片付けまで職員と入居者が一緒に台所に入り、その方々の好みや力が活かせるように支援している。 入居者は職員と一緒に下拵えをされ、配膳は入居者一人ひとりの形態や量が異なる為、職員が対応されている。自家菜園で収穫された野菜や差し入れの旬の食材が食卓に上がることもある。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者各々の状態に応じた摂取量や食事形態、服薬作用などを考慮している。また毎日十分な水分量が確保できるよう水分補給時間を設け、状況形態など必要に応じて支援している。

42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯ブラシ、コップを所定の場所にセットし必ず口腔ケアが行えるよう支援している。又、自立されている方も声掛け見守りを行い、口腔内の観察を行っている。歯科医往診時は報告を行い連携を図っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者それぞれの排泄パターンを把握し、状態に応じてその都度声掛け・誘導を行い、トイレでの排泄ができるよう支援している。	職員は排泄チェック表を基に利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、トイレで排泄ができる支援をしている。リハビリパンツの着用を基本としておりオムツからリハパンに改善できた事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々食事や水分摂取量を考慮し、入所者それぞれに適した運動ができるよう声掛け参加を促している。薬剤が必要な方は、主治医に相談し対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	季節に合わせた入浴支援をしている。入居者の希望やタイミングに合わせて声掛けをし、入浴を楽しんで頂けるよう支援している。又、定期的に温泉を配達してもらっている。	入浴日は(月・水・金)(火・木・土)で、左棟・右棟と交代で毎日対応できている。入浴支援は同性介助を心掛けている。シャンプーハットは以前嫌がる方のための取り組として準備されていた。月1回の体重測定で身体状況の把握で気づきがあれば主治医に情報提供をされている。開設当時から平戸温泉は継続して支援され、利用者の癒しの時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温調節等の環境整備を行い、休息・安眠できるよう支援している。日に活動できる時間を設け夜間良眠できるよう支援し、なるべく睡眠導入剤に頼らないようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤説明書、通院記録とともにファイルに添付し、職員全員が確認できるようにしている。内服変更時は変更内容の記録と申し送りを確実にし、状態変化の確認に努めている。		

48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割としてほとんどの利用者が積極的に家事手伝いを行われている。一人ひとりの生活歴、楽しみなどを尊重し、毎日が楽しく過ごせるように心がけている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の花見には必ず出かけ、入居者の希望により散歩や買い物に出かけている。又、希望者にはお寺参りをすることもある。	入居者の体調に合わせ、弁当持参で近隣の広場へ花見に出かける折、家族にも声かけをし参加をお願いしている。散歩時にスーパーへ立ち寄り入居者自身が選んでおやつを購入ができる支援もされている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自立されている方は自分でおこづかい程度の金額を所持されており、病院受診時、支払いまで済まされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある際は、その都度準備し、支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が居心地良く過ごせるよう季節の花を飾ったり、作成された手芸品を飾り、生活感や季節感を取り入れている。又、快適な生活が送れるよう自然な空間作りに努めている。	玄関を入ると目の前が共用空間となり季節のお雛様や花が生けられ、リビング兼食堂は対面式キッチンで入居者の作品がさり気なく飾られている。生活音を耳にしながらい居者はゆったりと居心地よく過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりがその時の気分に合わせて過ごせる好みの場所や交流が図れるような場所が作れるよう、椅子の種類や配置を考慮したり、ソファを用意し工夫している。		

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に家族にも説明をし、できるだけ使い慣れた物、好みのもを用意して頂き、安心して居心地良く生活できるように配慮している。	全室内は、フローリング&2畳の畳敷きであるが、入居者の調度品が持ち込まれており、趣味や個性豊かなその人らしい部屋となっている。入居者の状態変化により家族と話し合い危険防止対策も取られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な場所への手すりの設置や、靴を履くためのベンチの設置など、入居者が安全で、又、持てる力を発揮し、できるだけ自立した生活が送れるよう工夫している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない